



羅

針

盤

H26.11.17

明日は第4回実力テストです。このテストも進路決定の資料として大変重要です。1月の私学進路相談では、第3回実力テストと共にこのテストの得点も提示します。自分の最高の力が出せるよう頑張ってください。

これが第一印象

～進路用写真撮影～

明後日11月19日(水)に進路の願書等に貼る写真を撮影します。服装をチェックしておいてください。ブレザーとポロシャツのボタンは全部付いていますか？髪は黒くなっていますか？黒彩はすぐにわかります。名札はありますか？

高校から見ると、この写真は名前と合わせて見る初めての顔で、第一印象となり、その人の生活態度をチェックする1つの閑門となります。

装飾品はすべてとります。カラー写真ですので化粧は分かります。女子で髪が肩に掛かる人は、三つ編みか目立たないゴム紐で束ねるとよいでしょう。男子も髪が長い人は、床屋に行ってさっぱりしてきましょう。

撮影時、ブレザーの下にはセーター等は着ないでください。ブレザーやポロシャツのボタンは一番上まで留めます。ポケットからペンなどがないようにしてください。

不備のある人は撮影できません。守口の写真屋さんの店まで撮影に行ってもらいます。

撮影前に担任の先生から名前のゴム印が押してある封筒が配られます。これは写真屋さんが名前と写真を合わせるもので、撮影時に写真屋さんに渡してください。また、できあがった写真はこの封筒に入れられますので、折り曲げたりしないでください。

1時間目から3時間目にかけて、1組から出席番号順に、図書室で撮影します。

撮影料は、生徒費としてすでに保護者の方からいただいています。

家木先生 いますか

～正しい敬語～

3年になって意識してきたのか、職員室などで敬語を使おうと頑張っている生徒が多く見受けられます。その努力は認めますが、まだまだ変な敬語が多く聞かれます。

「家木先生 いますか？」これは丁寧な言い方ではありますか、敬語としては不充分です。注意すると「家木先生 ありますか？」……もっとひどくなってしまいました。

敬語は大きく分けて「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の3つがあります。「尊敬語」は相手の行動や物を尊敬して言う言葉で、例えば「言う→おっしゃる」「息子→ご子息」などとなります。「謙譲語」は自分の行動や物を謙って(自分を相手より下の立場とすること)言う言葉で、「言う→申す」「息子→愚息」などとなります。「丁寧語」はそれ自体に尊敬や謙譲の意味を含みませんが、相手に対する丁寧な言い方になります。「言う→言います」「菓子→お菓子」などとなります。

さて「家木先生 いますか？」の「先生」は尊敬の意味を持ちますが、「いますか」は丁寧だけで尊敬の意味はありません。「いらっしゃいますか」とすると尊敬の意味が入ります。「ありますか」の「ある」は「居る」の謙譲語で、先生の立場が自分より下ということになります。大人でも「家木先生はおられますか？」という人がいますが、謙譲語の「ある」に尊敬語の「られる」を付けた変なことばになってしまいます。

敬語は難しく、正しく使える大人もあまりいませんが、高校等の面接に向けて少しでも正しい敬語が使えるよう努力してください。詳しいことは国語の先生に尋ねてください。

自由＝自律

～大阪市立中央高等学校～

先日、中央高校の先生が来校され、ゆっくりとお話を聞く機会がありました。一通りの説明を受けた後、退学率をお聞きすると、苦笑いしながら「実は半数以上がやめています。」とおっしゃいました。その理由を次のようにおっしゃっていました。

中央高校は「昼・夜間単位制」で、授業は午前10時40分から午後9時0分まで、10時間の授業があります。実際は2時間ひとくくり95分の授業が5コマあります。そのうち1日平均3コマ6時間の授業を選択して受けると、3年間で卒業できます。そして、同じ授業が週に何度もありますので、自分のライフスタイルに合わせてチューター(担任)と相談しながらかなり自由に時間割を組むことができます。

自分で選択した授業にさえ出席すれば、いつ登校してもいつ下校してもかまいません。途中の空き時間は、校外に出るのも自由です。単位制ですので、単位が修得できなかった場合は、その教科だけ次の年に学習し直せばいいことになります。制服もありません。頭髪や化粧も、あまりにも授業にふさわしくないものでなければ、自由です。他の人に迷惑をかけなければ、とやかく言われることはありません。

しかし自分で決めた時間割は、自分で管理しなければなりません。人によって時間割が違うので、次にどの授業を受けたらよいのか誰も教えてくれません。授業を受けずに帰つても誰も注意してくれません。出席回数が足らず単位修得が難しくなって初めて、チューターから連絡があるだけです。つまり自分の行動は自分で管理しなければならないのです。

自由に時間割を組み、校則に縛られずに「自由」に学習できる代わりに、自分に責任を持ち、自分の行動を自分で管理できる「自律心」がなければ続かない学校だそうです。

卒業生がこんな言葉を残していました。

「…入学早々、友達がどんどん学校に来なくなりました。厳しい学校だと思いました。中央ではいきなり自由が与えられます。ここへ来るまでは、自由という言葉の楽な面しか見えていませんでした。自由に必要な自律に気付かなかった友達が、消えていきました。私も危ないところでした。…」

私のように一度高校をやめた人や、中学校で登校できなかった人など、さまざまな理由でこの学校を選び入学してきました。中央高校は、そんな人たちが周りを気にすることなく自分のペースで学べる学校、いろいろな年代の人と出会える学校、そして自分たち一人ひとりの時間を大切にできる学校です。

さまざまな事情があるからこそ、さまざまな付き合いがあり、さまざまな過去を背負っているからこそ、たくさんの優しさが思いやりとなって表される。…みんな個性が強く、自分の考えをそれぞれ持ちながら、優しさもしっかり持ち合っていました。…」

